

## 名古屋第二赤十字病院で診療を受けられる患者さんへ

### ～臨床研究に関する情報公開について～

当院では、下記の研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、カルテ情報等の診療情報を研究目的に利用されることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象とはしませんので、下記の問い合わせ先にご連絡ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。また、研究の詳細についてお知りになりたい場合も、下記の問い合わせ先にご連絡下さい。なお、研究の詳細については、他の研究対象者等の第三者の個人情報や知的財産の保護に支障がない範囲内での開示となります。

研究課題名	極細径内視鏡の有用性と適応		
研究実施予定期間	院長が研究実施を許可した日 ～（西暦）2024年12月		
研究実施診療科	消化器内科		
研究の倫理審査等	治験・臨床研究審査委員会審査日	2021年4月5日	
	院長が研究実施を許可した日	2021年4月6日	
対象となる方	対象期間内に、名古屋第二赤十字病院消化器内科において、外来で初めての大腸内視鏡を受けた方を対象とする。		
対象期間	（西暦）2019年1月～（西暦）2020年12月		
研究責任者	所属	消化器内科	氏名 齋藤 彰敏
研究の意義	大腸内視鏡検査の主な目標は、合併症無く盲腸まで内視鏡を挿入し、腫瘍などの病気を発見することです。しかし、腹部の手術歴がある方や、やせている女性などは、盲腸への挿入が技術的に困難なこともあり、医師の経験に関係なく痛みを生じることがあります。通常のものとは比べ細い内視鏡である極細径内視鏡は、盲腸へ到達する確率を上げ、また少ない痛みで内視鏡ができると報告されております。当院でも極細径内視鏡を所有しておりますが、どのような方に極細径内視鏡を使用するかどうかは、各医師の判断に任せております。所有本数に限りがあることもあり、安全で痛みの少ない大腸内視鏡検査を受けていただくには、極細径内視鏡を適応とする症例をより具体的に検討していく必要があります。		
研究の目的	極細径内視鏡の適応症例をより具体的に検討する。		
研究の方法	対象となる方の臨床情報について、診療録を振り返って収集し、統計学的に検討します。		
研究に使用するもの	診療録から得られる情報を、匿名化した上で使用します。（年齢・性別・既往歴などの基本情報、内視鏡検査・治療の情報、治療経過など）		
結果の公表	関連学会や学術論文等で発表予定です。対象者の氏名等の、直ちに個人を特定できる情報を公表することはありません。		
個人情報の保護	対象者の方の情報の使用に際しては、氏名や住所等といった個人を直ちに特定できるような情報とは切り離し、対象者個人とは無関係の番		

	号を付けた上で、研究責任者の責任の下、廃棄するまで厳重に保管・管理します。
研究の資金源	本研究は特に資金を必要とせず、外部からの資金提供もありません。
利益相反	本研究の実施にあたり、研究の透明性や公正性を損なうような利益相反はありません。
情報等の二次利用	本研究で得られた情報は、本研究の目的以外には使用しません。
問い合わせ先	名古屋第二赤十字病院 消化器内科 齋藤彰敏 電話 052-832-1121 (代表)